

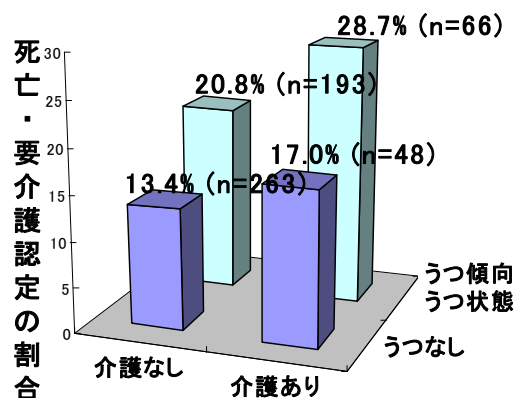
うつの家族介護者、死亡・要介護リスク倍増

2003年に愛知県下6自治体の健康な65歳以上の高齢者を対象に郵送調査を行い、その後4年間にわたって追跡調査をした結果、うつ傾向・うつ状態の家族介護者では、介護者でも、うつでもない高齢者に比べ2.14倍も死亡・要介護状態となるものの割合が高かった。また、家族介護の有無はうつの有無にかかわらず死亡・要介護状態となるものの割合が1.3倍前後高く、いっそうの介護者支援の重要性が示唆された。

分析には、AGESプロジェクト（愛知老年学的評価研究）のデータを用いた。2003年に要介護認定を受けていないA県下6自治体の65歳以上の高齢者を対象に、郵送法にて自記式調査を実施した。配布した調査票には3種類あり、家族の介護に関する設問が多く含まれる調査票（回収数5715人、回収率49.9%）を用いた。4年間の死亡・要介護状態の発生を追跡したデータを付加し、分析に用いた変数に欠損値があるものと、他の質問項目で矛盾する回答をしているものを除外した3437名を分析対象とした。分析方法としては、2003年時点で介護をしているものといないもの、うつありとなしのもの（GDS：高齢者用うつスケール Geriatric Depression Scale-15 項目短縮版）で、4年間の死亡・要介護状態の割合を比較した。

その結果、死亡・要介護状態のもの割合は介護・うつともになし13.4%、介護のみあり17.0%、うつのみあり20.8%、介護・うつともになり28.7%の順に多く、4群間に統計学的な有意差($p<0.01$)を認めた。この結果は、第58回日本社会福祉学会秋季大会(2010年10月10日)にて報告した。

介護とうつ、死亡・要介護認定の割合
(年齢の影響調整済み) $p<0.01$



学会報告

平松誠 近藤克則 家族介護とうつ、死亡・要介護状態発生との関連 第58回日本社会福祉学会 秋季大会 日本福祉大学 美浜キャンパス(2010年10月10日)

<本件に関するお問い合わせ>

学校法人 専門学校モード学園 名古屋医専
平松誠(ヒラマツマコト)までお願い致します。
TEL : 052-582-3000 携帯 : 090-6619-6939
住所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-27-1